

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 5 月 12 日
< 第 1 号 >
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成しています。今年度で 13 年目を迎え、これまでに約 1,500 名が修了し、多くの修了生が東京都の教員として活躍しています。「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくことを目的に発行しています。

●平成 28 年度 東京教師養成塾 入塾式

平成 28 年 4 月 4 日（月）東京都教職員研修センターにおいて、平成 28 年度東京教師養成塾入塾式を挙行了しました。都内及び近県の関係大学 36 大学から 150 名の第 13 期養成塾生が、これから始まる養成塾の講座や特別教育実習に大きな希望を抱き、緊張した表情で入塾式に臨みました。当日は、塾生の新たな門出を祝い、東京学芸大学 勝山 浩司顧問、玉川大学 森山 賢一教師教育リサーチセンター長をはじめ、教師養成指定校の皆様、関係大学の御担当者等多くの方々に御参列いただきました。

東京教師養成塾の塾長である東京都教育委員会 中井 敬三教育長は、式辞の中で「組織の一員としての自覚をもち、子供一人一人を十分に理解するように努めてほしい。」と述べるとともに、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に触れ、「子供たちが、様々な経験を通して、自己肯定感や体力の向上など、心と体に人生の糧となるかけがえのないレガシーを残せるようにしてほしい。」と、塾生へ期待の言葉を送りました。



—塾生代表の言葉—

また、入塾者代表として、帝京平成大学 松浦 理積塾生が、「自己の課題を乗り越える度に、一步一步、成長していくことができると信じ、積極的かつ果敢に取り組んでいきたい。」と、力強く決意の言葉を述べました。

今後、第 13 期養成塾生は、37 区市町村 91 校、都立特別支援学校 16 校の教師養成指定校における特別教育実習や講座、体験活動を通して、教師としての使命感や実践的な指導力、柔軟な対応力等を身に付けていきます。

●第 1 回講座

「特別教育実習で身に付ける実践的指導力～教師に求められる指導力～」 「あなたもわたしも大切な一人～人権感覚を身に付ける～」

平成 28 年 4 月 9 日（土）に、第 1 回講座を実施しました。

初めに東京教師養成塾を担当する菅野 恭子指導主事が「特別教育実習で身に付ける実践的指導力～教師に求められる指導力～」と題した講義・演習を行いました。この講義・演習は、塾生として身に付けるべき資質・能力について具体的な事例を通して学び、特別教育実習に向けて具体的な課題を設定することをねらいとしています。講義中に特別教育実習で学ぼうとしていることについて語る塾生の表情は希望に満ちあふれており、これから始まる特別教育実習への強い意気込みが伝わってきました。

次に、研修部教育開発課 志村 安統括指導主事が「あなたもわたしも大切な一人～人権感覚を身に付ける～」と題した講義を行いました。この講義は、一人一人の児童・生徒を大切にしたい教育活動を行う意義を理解するとともに、教師に求められる人権感覚について考えることをねらいとしています。志村統括指導主事からは、「一人一人の児童・生徒はかけがえのない存在であり、教師の日々の言動によって、児童・生徒が自分は大切にされているという気持ちをもつことが大切である。」との話があり、この言葉にうなずき、熱心にノートに書き込む塾生の姿が多く見られました。

班別協議では、講義・演習で学んだことを踏まえて、学校における教師の働きや学級での人権上の配慮事項について話し合い、理解を深めました。塾生からは「休み時間等を通じて、子供同士の人間関係を観察し、児童・生徒理解を深めることが大切である。」「学級経営で人権上の配慮をするためには、教師が学級の児童・生徒の気持ちを理解するとともに、児童・生徒に当事者意識をもたせる指導が必要である。」との意見が出されるなど、活発な協議が行われました。

【塾生の感想より】

- ・「よい教師は、子供の人生を変えることができる。」という言葉が印象的であった。これから塾生として学ぶ 1 年間を通して、教師としての資質・能力を身に付けていきたい。
- ・子供に「人権って何ですか？」と聞かれたときの答えをすぐに出すことができなかつた。教師になるにあたって、様々なことに対して自分なりの答えが出せるようにしたいと思った。
- ・講座全体を通して、教師になるのだという自覚を更に高めることができた。



—班別協議の様子—

● 第2回講座

「心を開いて子供に寄り添う～一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばす～」

平成28年4月23日（土）に、特別支援教育についての基礎的な知識や学級における児童・生徒への適切な支援の在り方について理解を深めるとともに、児童・生徒の可能性を伸ばすための具体的な方法を身に付けることをねらいとして、第2回講座を行いました。

講義では、東京学芸大学 学長補佐 奥住 秀之教授を講師にお招きして、「心を開いて子供に寄り添う～一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばす～」をテーマに小学校や特別支援学校における特別支援教育についてお話をいただきました。奥住教授からは、東京都が推進する特別支援教育について、特別支援教育コーディネーターの先生や特別支援教育支援員との連携を図ること、仮説をもって教育を実践することの必要性などのお話がありました。また、教師の仕事の素晴らしさについて語られ、塾生に励ましの言葉をいただきました。質疑応答では、塾生からの「周りの人たちと連携をするために必要なことは何か。」との質問に、「一つはしっかりと対話力。相手の助言をしっかりと聞くこと。二つは自分の専門性。三つはチームで解決する協調性。」とのお話があり、塾生は周りとの連携し、協力することの大切さを改めて感じていました。

班別協議では、講義で学んだことを踏まえて、児童・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばすために教師として心掛けることを話し合いました。塾生からは「児童・生徒同士で褒め合う活動を取り入れることで、横のつながりができ、自己肯定感を高められる。」「学級の環境整備によって、児童・生徒同士が助け合い、学び合うことができる。」などの意見があり、特別教育実習での授業観察を踏まえて発言する塾生も多く見られました。

東京都では、今年度以降、準備の整った区市町村の小学校に特別支援教室を導入し、平成30年度には全ての公立小学校に特別支援教室が設置される予定です。塾生には、特別支援教育に対する理解を深め、個に応じた指導の充実を図ることができるよう期待しています。

【塾生の感想より】

- ・教師になることに対する不安が少し軽くなった。そして、一日でも早く子供たちと素晴らしい時間を共にしたいという気持ちが大きくなった。
- ・自分が発する一言一言に「分かりやすさ」を意識しようと思った。また、児童を理解した上で、一人一人に合った学習方法を提案できるようになりたいと思った。
- ・すべての児童によさがあり、教師として子供のよさを引き出し成長させることが大切だと改めて感じた。こうした思いを常に意識し、実習に向かいたい。



—奥住教授による講義—

【連載シリーズ コラム①】

◆ 子供との関係を築く ◆

東京教師養成塾教授 武田 一郎

入塾式から二カ月が過ぎようとしており、教師養成指定校における特別教育実習に大分慣れてきている塾生が多く見られます。

東京教師養成塾では年間を通じて、教師は子供一人一人をよく理解し、子供との信頼関係をしっかりと築くことが求められていることを、塾生に指導しています。今回は、教師と子供との関係づくりについて、大切な点を3つ挙げてみました。

○ 子供とよく遊ぶ

児童・生徒理解に努めるため、休み時間に子供と遊ばずに、遊ぶ子供の様子を観察ばかりしている塾生がいました。結果は、児童・生徒との距離が開くばかりでした。外から子供を観察することは必要ですが、それだけでは問題は解決しません。まずは子供とよく遊ぶことです。子供と遊ぶ中で、子供の様子がよく見えてきます。子供と共に遊ぶ中で外から見ただけでは分からなかった子供の姿が見えてくるのです。

○ 子供の話をしっかり聞く

子供は自分の話をよく聞いてくれる先生が大好きです。子供の話をよく聞いていると、普段の日常生活では気付くことができなかったその子供のいろいろな面が見えてきます。子供の話を共感しながらよく聞くことで、子供との関係がぐっと縮まるのです。子供同士がけんかをした際も、双方の話をよく聞きながら、どうすればよかったのか子供自身にも考えさせ、けんかをきっかけにより双方の子供たちの関係が深まったというようにしたいものです。

○ 子供が悪いことをした時は、毅然として叱る

「子供を叱ると嫌われそうで、子供をしっかりと叱ることができない」という悩みをもっている塾生が多いようです。とんでもない間違いです。子供たちは自分が間違ったことをしたときは、教師に本気で叱ってもらいたいのです。子供をきちんと叱ることができない教師は、子供たちから信頼されません。

会津藩の仕の掟には、「ならぬことはならぬものです」と子供たちに守るべきことをしっかり教え、子供たちを立派に育て上げた歴史があります。子供が悪いことをした時は、毅然として叱ってください。子供たちもそんな先生が大好きです。

塾生には、以上のことを意識して特別教育実習に取り組み、子供たちと一緒に、自分の目指す教師像に向けて一生懸命に努力することを期待し、指導をしています。